美術科教育学会通信

１９９７年１０月７日発行　　美術科教育学会本部事務局　　Ｎｏ．２６
〒１８４　東京都小金井市貫井北町４丁目１－１　東京学芸大学
美術科教育学研究室内 ☎0423-29-7606, 7608, 7610(砌・柴田・増田各直通)　　FAX. 0423-29-7599

９７年･夏の役員会が開かれました

去る８月２８日に恒例の夏の役員会が開かれました。目下、学会費値上げや、学会の基本的な枠組に関わる学会規約の改正などといった重要案件がないために、具体的な議決事項（●印の議題）は少数でしたが、美術教育を取り巻く昨今の閉塞状況を反映して、「いかにして学会活動と美術教育を活性化していくか」という思いをベースに、意見交換を中心とする形で役員会は行われました。以下に議案を抄録し、若干の説明をしておきます。

○『学会史』編纂の進捗状況報告
○理事選挙の実施について
○海外交流の促進について
○公開シンポジウムについて
○学会誌１８号の発行と１９号の編集についての報告
○学会通信発行体制の強化について
○学情センター電子図書館サービス参加についての経過報告
○９８年大阪大会について
○他学会との連係について
●新入会者の承認
●部会活動の継続の承認
○学会活動のいっそうの深化に向けて

現役員の任期は来年３月までですが、これまで１８回を数えた公開シンポジウムも今期でいちおうの区切りをつけることとなりました。シンポジウムなどの対外的な活動の今後については、来期の役員会の方針、さらには会員諸氏の意識の在りように委ねられることになります。

海外交流促進の一環に、来年行われるＩＮＳＥＡアジア会議の後援がありますが、同会議の前に本学会と日本美術教育学会、大学美術教育学会とでアカデミック・プレ・コングレスを開いてはどうかとの意見が出ています。

現在活動中の部会の継続が承認されました。部会活動は規約上３年ごとに見直しすることになっており、「アミューズ・ヴィジョン研究会」「基礎データベース部会」「国際研究交流部会」「美術教育史研究部会」「美術教育の課題と授業研究部会」の継続が了承されました。なお「工作・工芸教育研究部会」は設立後３年未満のため、今回の審議対象ではありませんでした。

学会誌19号には38編の投稿があり、32編が掲載可能論文（条件付パスのものも含む）として選定されました。なお学会誌刊行に関して、平成９年度も研究成果公開促進費として59万円の補助を受けています。

1998・INSEAアジア地区会議東京大会の案内

インシア・アジア地区会議が「人間・造形美術・教育 ― アジアからの発信 ― 」をテーマに、来年の８月20日から24日の期日で、青山学院女子短期大学（東京・渋谷）を会場に開催されます。以下に概要を記しておきます。

■日　　程（予定）

	9	10	12	13	18
8 月20日（木）	受付	開会式・基調提案	昼食	研　究　発　表	
8 月21日（金）	受付	公開授業　討議	昼食	研究発表　討議	懇 親 会
8 月22日（土）	ｱﾄﾗｸｼｮﾝ・ｼﾝﾎﾟｼﾞｳﾑ・閉会式 など		視　察　・　観　光		
8 月23日（日）～ 24（月）　視　察　・　観光					

■公式言語　日本語・英語

■参加資格　美術教育・美術活動に関わる人々。大会目的に賛同する人々。

■参加費用　前納会員　10,000円（平成10年４月１日まで）
当日会員　12,000円（平成10年４月２日から当日まで）
＊学生会員は半額

■参 加 国　アジア諸国を主体とするINSEA 加盟97ケ国

■研究発表・公開授業などの申し込み
研究発表（発表40分、質疑10分）・公開授業を希望される方は大会事務局にコンタクトを取ってください。なお発表申し込み締め切りは平成９年12月31日になっています。
大会事務局：お茶の水女子大学附属中学校美術科　春日明夫(大会事務局長)
〒112 東京都文京区大塚２－１－１
☎（専用）050-658-2489　中学校 03-5978-5864
Fax.03-5978-5863

■予約申込　郵便局備え付けの便振替払込書を使用し、「ＩＮＳＥＡアジア地区会議」宛に参加費10,000円を払い込む。口座番号は 00150-2-581034

国際研究交流部会ニュースから

さる７月10日から15日にかけて、インシアのヨーロッパ地区会議がスコットランドのグラスゴウ市で開催され、当学会からも仲瀬律久、村上暁郎、増田金吾、直江俊雄、本村健太、長島春美、徳雅美（在米）の７名が参加しました。参加者総数は約 350名で、講演数９、研究発表 144件でしたが、当学会員の発表は次の通りです。

(1) 仲瀬律久（レイチェル・メイソン氏との共同発表）：Craft Education in Secondary Schools in Japan and England

(2) 増田金吾 ：Comparative Study on Children's Pictures in Japan and Northern Ireland, UK

(3) 徳雅美 ：Cross-cultural Annalysis of Spatial Treatment in Drawing "Why do Japanese Children draw in their own ways„

堀典子理事からの手紙

今夏スペインに研修で滞在された堀氏から、８月末の役員会に出席できない旨を記した丁寧な手紙を、学会事務局宛に頂戴しましたが、その中に、事務上の連絡とは別に、現時点での美術教育研究の進むべき方向を記した一文も同封されていました。会員諸氏にとっても参考になるところの多い文章と思いますので、以下に掲載させていただきます。

これからの美術科教育学会では、授業法の研究に重点をおいて頂きたいと思います。

近い将来、中学校教員の免許をとるために、専門領域の単位は半分に減り、教育法の単位が大幅に増えるそうですが、「それに従った大学の授業の望ましい在り方」を重点テーマにして頂きたいと思っております。

1960年末のドイツの教員養成の改革で、これと同じことが要求され、実現しました。絵画Ⅰ・Ⅱ・Ⅲは半期を専門の授業に、残り半期を絵画授業法の授業に‥‥、デザインⅠ（勿論ⅡもⅢも）も半期を専門の授業に、残りの半期をデザイン授業法の授業に‥‥、工芸Ⅰ・Ⅱ・Ⅲも、彫刻Ⅰ・Ⅱ・Ⅲも同様にです。美術理論はほとんど全て鑑賞教育の授業法の授業に‥‥という訳です。

教員養成大学の授業としては考えてみれば当り前のことなのですが、日本でこれを数年先に実現するためにはどうすればいいかということです。

絵画は専門の内容も授業法（小・中・高等学校における）も絵画の教官が担当することになると思います。以下同様に、デザインの教官がデザインの専門内容とデザインの小・中・高等学校における授業法の授業を担当します。彫刻担当、工芸担当、美術理論担当の教官は、それぞれに自分が担当している専門内容すなわち実技を半期授業し、残りの半期は担当している専門領域に関して小・中・高等学校においてどのような授業をしたらよいかという授業法の授業を担当することになるかと思います。

ドイツでは、授業法の授業では一般的に学生達が模擬授業をし、教官がよりよき授業へのアドバイスをします。他の学生達は小・中・高等学校の生徒の役割を演じるわけです。教官が小・中・高等学校における模擬授業をすることもあります。

数年先の単位の改定にそなえて、是非とも美術科教育学会のメインテーマを「大学における美術科の各領域における授業法の授業のよりよい在り方」に定めて下さい。

大分大学で教官を公募しています

【職名及び人員】助教授または講師、または助手の１名【専門分野】美術科教育学【担当授業科目】学部では「美術科教育法」「図画工作教育法」「図画工作」ほか、大学院では「美術科教育特論」「美術科教育演習」ほか【応募資格】次の条件をすべて満たす者①40歳以下の者（平成10年４月１日現在）②大学院修士課程修了者またはそれと同等以上の能力を有する者③美術科教育学の研究業績を有する者【採用予定年月日】平成10年４月１日【提出書類】①履歴書（写真添付）②研究業績ロ業績目録（著書、学術論文、口頭発表、その他の項目により整理すること。論文には学会誌名・発表機関・発表年月日・単著共著の別・掲載頁を記載すること。著書、口頭発表などについても必要な情報を同様に記載すること。）ロ著書、論文の研究概要ロ著書（本体）、論文の抜き刷り（コピーも可）【応募締切日】平成９年11月17日【応募書類提出先】〒870-11 大分市大字旦野原700番地 大分大学教育学部長宛（封筒に「美術科教育学教官応募書類在中」と朱書し、書留で送付のこと）【問い合わせ先】大分大学教育学部庶務係 ☎0975-54-7504･7505【その他】面接を行うこともあるが、旅費は支給しない。

第19回公開シンポジウムのお知らせ

来る11月29日(土)の午後3時から5時半までの予定で、福岡市立美術館講堂を会場に第19回目の公開シンポジウムが開催されます。詳細は吉井宏理事（福岡教育大学☎0940-35-1428）の方へお問い合わせ下さい。

テ ー マ：美術教育と日本文化の特質
パネラー：エリダ・マリア（福岡教育大学大学院生・ブラジル人留学生）
笹原浩仁（福岡教育大学付属小倉小学校教諭）
佐藤完兒郎（福岡教育大学助教授）
芳賀美子（北九州市教育委員）
安永幸一（福岡市立美術館副館長）

学会メディアトピックス

パソコン・インターネットの社会現象化にも関わらず、それらが本当に活用されているかというと、未だ啓蒙的段階を脱していないようです。多くの大学のホームページも「電子チラシ」的な粗末なものが殆どで、ゼミの学生のレポートまで読ませてくれるというのは先進的希少例に属すといってよいでしょう。ここでは、そのような状態の中での意欲的な試みとして、宇都宮大学教育学部の直江研究室のホームページを紹介しておきます。

直江俊雄氏の研究室の現在のページは次の様な内容をそなえています。

- ロンドン・ローハンプトン大学のレイチェル・メイソン教授が昨年11月に宇都宮大学で行った特別講演「国際的視点から見た多文化主義の美術教育」の一部の紹介。
- デザイン教育専門書『デザイン教育ダイナミズム』の内容の紹介。目次から、リンクのある項目をクリックすると、本文の一部を読むことができる。
- 教育改革への提言をまとめた小冊子『創造的な未来へ－教育の質的転換をめざして－』の全文の紹介。
- 宇都宮大学美術科における卒業研究・修了研究作品の画像公開（全員1点ずつ）。
- 〈美術館・ギャラリー探索〉〈セレクション〉〈教育研究情報〉からなる「美術と教育のためのリンク集」の提示。

そして、次のような今後の発展計画が構想されています。

○大学で担当する授業の概容紹介と、学生による授業評価の公開。
○東山明編『中学校・高校ヒット教材集』の紹介ページの作成。
○大学院生を中心に作成したWeb形式によるマルチメディア教材の試作例の紹介。
○小学校の先生方との共作による、漫画形式での、授業のヒントや子どもへの資料提示例などの紹介。
○宮脇理氏の「映像作家の描く子ども論」の特別連載の開始。
○研究開発の方針や関連する諸問題に対する論説「編集者の眼」の掲載。etc.

以上、実に精力的な取り組みです。興味のある方は、下記のアドレスにアクセスしてみて下さい。

http://ks001.kj.utsunomiya-u.ac.jp/~artedu/Pages/Index.htm または、宇都宮大学ホームページ（http://www.utsunomiya-u.ac.jp:80/）にアクセスして、－ 学内サーバー － 教育学部 － 美術科教育研究室とページをたどる。